# この女たちのすべてを語らないために（1964）

FOR ATT INTE TALA OM ALLA DESSA KVINNOR

**メディア** 映画
**ジャンル** ドラマ　コメディ
**製作国**　スウェーデン
**色彩**　Color
**時間**　80分
**公開情報** 劇場未公開・ＮＨＫ衛星第２で放映

**【解説】**

ベルイマン最初のカラー作品は、まるで黒澤の「どですかでん」のように色彩に溢れた、後の「叫びとささやき」の抑制が信じられない（むしろ、その色調はハリウッド・ミュージカル的である）、内容的にも非常にふざけたスラップスティックな掌篇だ。巨匠と呼ばれるチェロ奏者の葬儀。観客には見えない棺の中を見ながら、その女たちは思い思いの台詞を吐く。遡って四日前。巨匠の邸宅に高名な音楽評論家コルネリウスが現われ、面会を希望する。彼は巨匠の半生記を書くよう依頼されており、そのインタヴューに来たのだが、なかなか当の本人に会えない。夫人アデライーデをはじめ、マダム・タッソー、トラビァータ、みつばち、ベアトリスーーと彼が名づけた愛人たちは彼の愛を競って争いあう。そのおこぼれを頂戴し、みつばちと一夜を共にし、女中のイゾルデに熱烈なキスをもらうコルネリウスだが、一向に彼の姿も拝めないのでイライラ。それが唐突に、コルネリウスが屋敷中抱えて走る花火で表現されるシュールさ（花火には何の含みもないーーとわざわざ字幕画面が入る）には参る。花火炸裂する邸のテラスからシルエットで手を振る巨匠を皆が庭からうっとりみつめる場面は滑稽だ。その使用人も写真マニアの秘書とか昔コンテストで破れて以来運転手をする男など変人ばかり。結局、何の証言も取れず、彼が世界に向けて久々にラジオ公演をする当日となるが、肝心の顔は今度は集音マイクに隠れて、一節も弾かず巨匠は倒れた。顔はチェロに邪魔され見えないまま……。そして終章、女たちの前にいかにも貧しげな青年が現われチェロを弾く。コルネリウスを紹介され、彼が恭々しく礼をすると、彼はおもむろにノートに何やら書きつけ始める。新たな巨匠の誕生であるーー。少々はしゃぎすぎの感もあるが、音楽業界の裏面を皮肉って、巨匠が余裕綽々と作った喜劇の逸品。ともかく色踊るニクヴェストの撮影が見ものだ。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | イングマール・ベルイマン | Ingmar Bergman |
| **脚本** | イングマール・ベルイマン | Ingmar Bergman |
| **撮影** | スヴェン・ニクヴィスト | Sven Nykvist |
| **音楽** | エリック・ノードグレーン | Eric Nordgren |
| **出演** | エヴァ・ダールベック | Eva Dahlbeck |
| | ハリエット・アンデルセン | Harriet Andersson |
| | ビビ・アンデショーン | Bibi Andersson |
| | アラン・エドワール | Allan Edwall |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.